

# 心身状態を表すオノマトペに関する中国人日本語学習者の現状分析

郭 丹磊

大阪市立大学大学院 文学研究科 言語文化学専攻

言語応用学専修 前期博士課程2年生

**Keywords:** 心身状態, オノマトペ, 中国人日本語学習者, 習得現状

## 1. はじめに

飛田・浅田(2018)『現代擬音語擬態語用法辞典(新装版)』によれば、擬音語というのは人間又は人間以外の生物が自然にあるいは外力の作用を受けて発する音響を音声で表現したものであり、擬態語というのは人間を含む生物、無生物、自然界の事物の有様、現象、変化、動き、成長などの状態、様子を描写的、象徴的に音声で表現した物である(pp.V~XIV)。呉(2005)により、中国語の「象声词」というオノマトペは、物音や人間・動物の声などを言語音に模倣して漢字で表記する語の一群を指し、中に音のイメージで状態を表すものも含まれている(p.3)。本研究では、擬音語と擬態語をまとめて「オノマトペ」とする。

玉村(1992)は、擬態語・擬音語の多いことは、日本語の一つの特徴であると指摘した。日本語の擬音語・擬態語は数量も種類も豊富で、コマーシャルや日常会話、文学作品などに頻繁に使われているのに対して、中国語の擬音語・擬態語は日本語より少なく、あまり使われていない。それゆえ、中国人の日本語学習者にとって、オノマトペの勉強は大切である。

今まで、日本語と中国語のオノマトペ、それぞれの音韻構造と形態的特徴についてさまざまな研究が行われてきた。オノマトペの日中対照研究に関して、薛(1987)は人間の行為についての日中両言語のオノマトペの対照を行った。また、吉永(2017)は擬態語の語彙的性質と習得状況の関係性を調査するため、中国の教育機関でアンケートを実施し、集計結果を分析した。擬態語文の文末「だ/する」を選択させる部分作文アンケートの結果分析から、このアンケートの答えを間違えたのは動詞、形容詞、副詞の用法や品詞分類の知識がないための誤用と判断される。しかし、身体的特徴や人の気持ちに関するオノマトペの習得研究はまだ見つからない。それゆえ中国人日本語学習者による身体的特徴や人の気持ちに関するオノマトペの習得現状を把握するため、本研究を行う。また、本研究を通して中国人日本語学習者にとって正解率が高いオノマトペと正解率が低いオノマトペ、それぞれの特徴をまとめたい。

## 2. 研究方法

三省堂が発行する電子版辞典『スーパー大辞林3.0』の付録の中で、「擬音語・擬態語」というインデックスから、人の身体的特徴、人の健康状態と人の様子・心情・感覚に属するオノマトペを抽出し、①人の身体的特徴、②人の健康状態、③人の性格、④気持ちの高揚・充足、

⑤不注意・失望、⑥不安・心配・小心、⑦不愉快・疲労、全部で七種類に分けた。一種類を5個ずつ、辞典やインターネットで調べた例文をもとにして、合計35問の選択問題と個人の学習状況を把握するための設問を加えて、アンケートを作成した。現在中国にいる日本語学習者10人と現在日本にいる中国人日本語学習者10人を対象者として、アンケートに回答してもらう。

### 3. 現状の分析結果（現在進行中）

依頼した20人の中で、アンケートに回答してくれたのは中国にいる学習者2人を除く18人である。合計35問のうち、正解率が80%以上の問題は9つあり、それに対して、正解率が30%以下の問題は4つある。

正解率が高いオノマトペは「いらいら、すべすべ、がんがん、うんざり、すっきり、じんじん、にこにこ、うっかり、おろおろ」の9つである。対象者は回答するときの考えを聞いたら、この9つのオノマトペはよりなじみのあることが確認された。アニメ、ドラマやCMにおいて見たことがある、あるいは日本語能力試験（JLPT）の勉強で学んだことから、対象者はこれらのオノマトペの意味と表す気持ちや感覚をかなり把握していることがわかった。例えば「いらいら」の方に対して、対象者はこの単語の「思い通りにならなくて焦れた気持ち」をよく理解していて、日常生活にも「いらいらする」のような言い方を時々使っていることがわかった。

正解率が低いオノマトペは「しくしく、おちおち、ごつごつ、むずむず」の4つである。間違えた原因を聞くと、対象者は勉強するときにあまり触れないことと、日常生活であまり使わないと答えた。例えば、「しくしく」に関して、「たえず差し込むように、鈍い痛むさま」という意味は知らず、マイナスの意味を持っていることを想像しにくいと対象者が答えてくれた。その理由として、報告者が現在考えていることは、まず日常生活によく使う言葉、例えば「静かな人」や「静かにして」から、「し」は静かな印象が持たれやすいということである。また、中国語には「しくしく」と似ている発音がない一方で、発音するときの感覚から考えたら「鼻詰まり」の方が連想されやすいということである。

#### 参考資料

飛田・浅田（2018）『現代擬音語擬態語用法辞典（新装版）』東京堂出版

『スーパー大辞林 3.0』三省堂 2017 年出版

#### 参考文献

呉川（2005）『オノマトペを中心とした日中対照言語研究』白帝社、東京

薛鳴（1987）「オノマトペについての日中対照研究：人間の行為に関する表現を中心に」『待兼山論叢 日本学篇』第 21 巻、pp. 43-60

玉村文郎（1992）「日本語と中国語における音象徴語」『日本語と中国語の対照研究文集（下）』くろしお出版、pp. 145-158

吉永尚（2017）「心身の状況を表す擬態語の習得についての考察—中国語話者の作文データをもとに—」『園田学園女子大学論文集』第 51 号、pp. 93-103